

にらの定植時期と苗の大きさが生育、収量に及ぼす影響について

1 試験のねらい

春まきにらの定植は、一般に6月下旬～8月上旬と幅広く行われているが、定植する苗もその時期によって大きな差がみられる。そこで、定植期に応じた適正な苗の大きさを知るため、定植時期と苗の大小を組み合わせて冬にらの収量、品質に及ぼす影響を検討した。

2 試験方法

品種はグリーンベルトを用い、定植を6月23日、7月8日及び21日の3回とし、それぞれの定植時期に応じ表-1のとおり同一育苗のなかから定植苗を1(大,小),2,3及び4本分けつ苗とした13処理を設けた。また、現地(鹿沼市)にも1,2及び3本分けつ苗を7月9日に定植した。規模は場内が1区24株,1区制,現地は1区50株,2区制で、定植は畝幅40cm,株間20cmに場内が1株,現地は8茎植えとした。

保温は場内が12月21日,現地は1月18日で、収穫はそれぞれ4回行った。

3 試験結果及び考察

場内における定植時の苗の大きさは表-1のとおり,同一分けつ苗では定植期が遅れるに従い大苗となったが,4本分けつ苗は7月8日定植までにはほとんど発生しなかった。

収穫時の茎数及び収量は早期定植ほど,また,同一定植期では分けつ数の多い苗ほど茎数は増加し,増収する傾向を示した(図-1)。定植期と収量の関係は表-2のとおりで,6月23日定植に比較し7月8日が14%,21日定植で31%減収した。一方,苗の大小間では各定植期とも3本分けつ苗が最も優れたが,6月23日定植の1本小苗が7月8日の2本分けつ苗にほぼ近い収量が得られ,21日定植より増収したことは,苗の大きさと同時に早期定植の重要性がうかがわれた。なお,7月21日定植の4本分けつ苗が3本分けつ苗より減収したのは株の老化等が原因と思われる。

収穫時の葉幅は7月21日定植でやや狭い傾向が認められたものの,各定植期とも苗の大小間にはほとんど差がなかった。

現地における収量は苗の大小間にはほとんど差が認められず,葉幅は定植時に分けつの進んだ苗ほど広く,茎数は逆に減少する傾向がみられた。収量に差を生じなかったのは株当たり茎数をほぼそろえたことによると考えられるが,植付株数は1本苗が8株,2本分けつ苗4株,3本分けつ苗3株で,株当たり収量は3本分けつ苗が最も優れ,場内試験と一致した。

4 成果の要約

にらの定植時期と定植時の苗の大きさが収量、品質に及ぼす影響について検討した結果、定植時の苗は3本程度に分げつした苗が最も生産力の優れた苗と考えられ、早期定植ほど増収効果は高く、収量的には7月上旬までに定植を完了すべきと思われる。なお、この時期までに充実した

苗の確保が困難と考えられる場合には、小苗でも早期に定植することが望ましく、定植期の遅れは減収の大きな要因となる。

(担当者 野菜部長 修・室井栄一)

表-1 定植時の苗の大きさ

分けつ数	6月23日		7月8日		7月21日	
	草丈cm	重量g	草丈cm	重量g	草丈cm	重量g
1(小)	25	2	33	4	33	4
1(大)	28	4	36	6	35	6
2	34	8	40	17	43	18
3	32	9	40	23	43	31
4	—	—	—	—	42	28

注 3月25日は種。

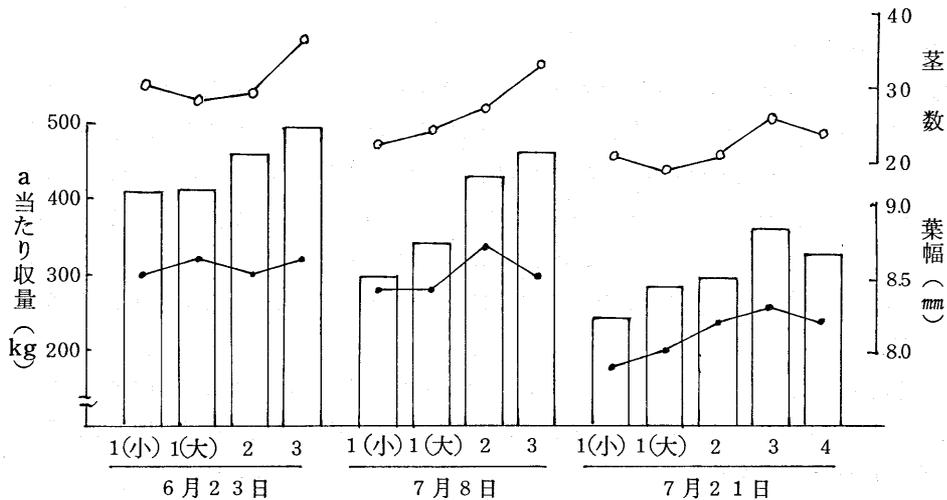


図-1 定植期並びに苗の大きさが収量、葉幅に及ぼす影響

表-2 定植期が収量、葉幅に及ぼす影響

定植月日	収穫時の茎数	収量 株当たりg	葉幅 比%	葉幅 mm
6.23	31	502	100	8.6
7.8	27	434	86	8.5
21	22	344	69	8.1

表-3 苗の大きさと収量、葉幅(現地)

分けつ数	定植時の苗重g	収穫時の茎数	a 当たり収量 kg	葉幅 mm
1	7	40	456	8.1
2	16	34	448	8.4
3	23	34	454	8.5

注 3本分けつ苗は9茎(3株)植えとした。